

1. 血液透析導入期における腎性貧血治療およびエリスロポエチン抵抗性の推移に関する検討

腎機能低下が進行すると、赤血球を産生する能力も低下するため貧血が進行します。これを腎性貧血と呼び、赤血球の産生を促進させる薬剤を用いて治療を行っています。当科では、これまでに腎不全が進行して血液透析を導入した患者様について、腎性貧血の治療に関する観察研究を行いたいと考えております。2011年～2015年に当科で透析を導入された患者様の過去に通常診療の範囲内で行った検査の結果や投薬内容を基に、薬剤の投与量毎の貧血改善効果や薬剤の効きやすさ等について統計学的な解析を行い、今後の診療に活かして参りたいと考えています。患者様に新たに追加の検査や治療などの御来院や何らかの御負担をお願いすることはありません。研究期間は承認日より平成28年12月31日までの予定です。

本研究により対象となった方に直接的な利益はございませんが、研究成果は将来、腎性貧血のより良い治療法を見出すための一助となり、多くの患者様の治療に貢献できる可能性があると考えています。

個人情報漏洩を防ぐため、熊本大学医学部附属病院腎臓内科学分野では、個人を特定できる情報を削除し、データのデジタル化、データファイルの暗号化などの厳格な対策を取り、第三者が個人情報を閲覧できないようにしております。また、本研究の結果の公表(学会や論文等)の際には、患者様を特定できる情報は一切含まれません。

対象となることをご希望されない方は下記の連絡先までご連絡下さい。

2. 腹膜透析導入期における、腎性貧血治療及びエリスロポエチン抵抗性の推移に関する検討

腎機能低下が進行すると、赤血球を産生する能力も低下するため貧血が進行します。これを腎性貧血と呼び、赤血球の産生を促進させる薬剤を用いて治療を行っています。当科では、これまでに腎不全が進行して腹膜透析を導入した患者様について、腎性貧血の治療に関する観察研究を行いたいと考えております。2011年～2015年に当科で透析を導入された患者様の過去に通常診療の範囲内で行った検査の結果や投薬内容を基に、薬剤の投与量毎の貧血改善効果や薬剤の効きやすさ等について統計学的な解析を行い、今後の診療に活かして参りたいと考えています。患者様に新たに追加の検査や治療などの御来院や何らかの御負担をお願いすることはありません。研究期間は承認日より平成28年12月31日までの予定です。

本研究により対象となった方に直接的な利益はございませんが、研究成果は将来、腎性貧血のより良い治療法を見出すための一助となり、多くの患者様の治療に貢献できる可能性があると考えています。

個人情報漏洩を防ぐため、熊本大学医学部附属病院腎臓内科学分野では、個人を特定できる情報を削除し、データのデジタル化、データファイルの暗号化などの厳格な対策を取り、第三

者が個人情報を見ることができないようにしております。また、本研究の結果の公表(学会や論文等)の際には、患者様を特定できる情報は一切含まれません。

対象となることをご希望されない方は下記の連絡先までご連絡下さい。

熊本大学医学部附属病院腎臓内科学分野

教授 向山 政志

助教 安達 政隆 (責任者)

医員 藤本 大介

医員 秦 雄介

連絡先：

〒860-8556 熊本市中央区本荘 1-1-1

TEL：096-373-5164

担当：安達 政隆